

台湾北部における地域社会が支援する農業の地域展開に関する研究

李, 至軒

<https://hdl.handle.net/2324/2198521>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (芸術工学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名 : 李至軒

論 文 名 : 台湾北部における地域社会が支援する農業の地域展開に関する研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

地域を支援する農業（Community Supported Agriculture, 以下、CSA という）とは農産物の定期契約を通じて、生産者と消費者が連携し、相互に支え合う仕組みと定義される（農研機構, 2013）。現在、世界で CSA の導入を促進するには、生産者間での共同生産・出荷と消費者交流による生産者・消費者の地域的な連携が有効であり、様々な国で CSA 導入が促進されつつある。なお、台湾 CSA 農業は近年、安全な食材生産と農民の交流を目指しており、CSA 提携する生産者と消費者の交流関係が徐々に広がりつつある。2004 年には、台湾において最初の CSA 農場が北部の宜蘭県で誕生し、2018 年で 14 年が経過した。台湾の CSA は、社会の変化とともに、農場の総数と生産地の面積が拡大している。

台湾における、CSA 農業の実践は生産地によって様々であるが、重要な CSA 生産地を類型化すれば、都市型と農村型に類別できるようである。CSA 農業の実践において共通するところは、農民と消費者との直接的な提携という、いわゆる日本の産直提携という販売形態をとることにある。

しかしながら、農村と都市の分断と対立という現代の台湾社会の状況の下では、農民と消費者が直接的に交流する機会が極めて乏しい現実がある。

一方、近代化の進展は、農薬、化学肥料の使用をもたらした。慣行農業による環境問題が指摘されており、消費者の交流と食材の安全を指向する CSA 農業は今後の発展が期待されつつある。

そこで、本研究は、台湾北部の CSA 農場を対象とし、その運営状況を調査し、台湾北部 CSA の実態を明らかにするとともに、消費者の CSA 農産物に対する関心と意識を尋ね、CSA の消費者の実態を明らかにすることを目的とする。

研究調査の実施方法は 2 種類とした、1 つ目は、台湾北部の CSA 農場でアンケート調査を行い、CSA 農場の加入要因と消費者実態を明らかにした。2 つ目は、北部の CSA 農場へのヒアリング調査を行い、宜蘭県の深溝村 CSA 農場協同組合の活動構成と財務実態を明らかにした。

本研究の結果として、台湾北部 CSA 生産者は、消費者への直接販売を行い、消費者との交流活動や前払い制度などにより、安定した業態を確立したと考えられた。環境意識と理解のある生産者との連携と販売価格の高付加価値化、CSA 農産物の生産活動における人材育成活動、消費者との多様な交流活動を通じて展開している実態を明らかにした。

さらに、CSA の消費者は台湾北部における農地の保全と食材の安全性を重視する傾向がある。これに加え、CSA の価値は安全な農産物の生産・提供だけでなく、生産に関わる様々な交流活動に参加できることも重要な価値とみなされていることが確認できた。農産物を提供しながら交流していく方式が台湾における CSA 経営の特徴であると再認識することができる。